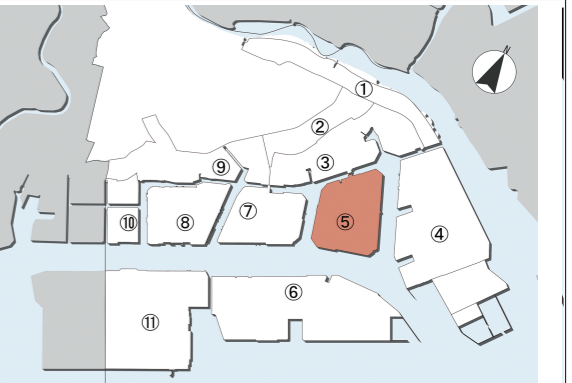
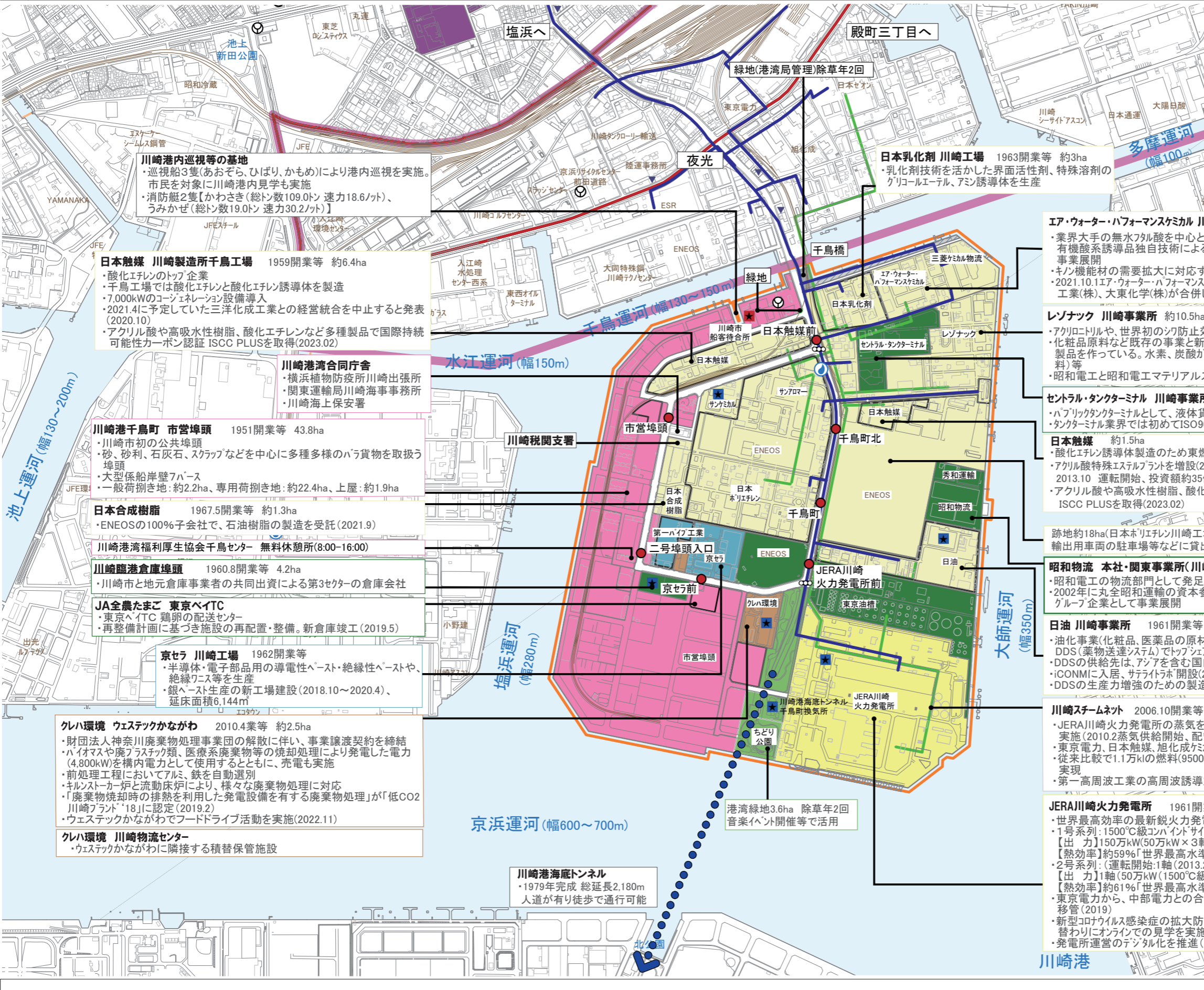


凡例

市域	国際戦略総合特別区域	バス停	警察署	避難所	製造 (石油・石油化学)	公共用地	その他	研究開発
対象地区範囲	都市再生緊急整備地域	鉄道駅	消防署	給水拠点	製造 (石油・石油化学以外)	物流	良好な戸建住宅地	
	特定都市再生緊急整備地域	横断歩道	便利施設 (コンビニ・売店等)	津波避難施設	リサイクル	エネルギー	公園等	
		工業用水道		帰宅困難者用一時滞在施設				

SCALE 1/12000

千鳥町地区 5



川崎港内巡視等の基地
 ・巡視船3隻(あおぞら、ひばり、かもめ)により港内巡視を実施。市民を対象に川崎港内見学も実施
 ・消防艇2隻【かわさき(総トン数109.0トン 速力18.6ノット)、うみかぜ(総トン数19.0トン 速力30.2ノット)】

日本触媒 川崎製造所千鳥工場 1959開業等 約6.4ha
 ・酸化エチレンのトップ企業
 ・千鳥工場では酸化エチレンと酸化エチレン誘導体を製造
 ・7,000kWのコンプレッション設備導入
 ・2021.4に予定していた三洋化成工業との経営統合を中止すると発表(2020.10)
 ・アクリル酸や高吸水性樹脂、酸化エチレンなど多種製品で国際持続可能性カーボン認証 ISCC PLUSを取得(2023.02)

川崎港湾合同庁舎
 ・横浜植物防疫所川崎出張所
 ・関東運輸局川崎海事事務所
 ・川崎海上保安署

川崎港千鳥町 市営埠頭 1951開業等 43.8ha
 ・川崎市初の公共埠頭
 ・砂、砂利、石灰石、スクラップなどを中心に多種多様なバラ貨物を取扱う埠頭
 ・大型係船岸壁7バース
 ・一般荷捌き地:約2.2ha、専用荷捌き地:約22.4ha、上屋:約1.9ha

日本合成樹脂 1967.5開業等 約1.3ha
 ・ENEOSの100%子会社で、石油樹脂の製造を受託(2021.9)

川崎港湾福利厚生協会千鳥センター 無料休憩所(8:00~16:00)

川崎臨港倉庫埠頭 1960.8開業等 4.2ha
 ・川崎市と地元倉庫事業者の共同出資による第3セクターの倉庫会社

JA全農たまご 東京ベイTC
 ・東京ベイTC 鶏卵の配送センター
 ・再整備計画に基づき施設の再配置・整備。新倉庫竣工(2019.5)

京セラ 川崎工場 1962開業等
 ・半導体・電子部品用の導電性ペースト・絶縁性ペーストや、絶縁ワニス等を生産
 ・銀ペースト生産の新工場建設(2018.10~2020.4)、延床面積6,144㎡

クレハ環境 ウェステックかながわ 2010.4業等 約2.5ha
 ・財団法人神奈川廃棄物処理事業団の解散に伴い、事業譲渡契約を締結
 ・ハイオマスや廃プラスチック類、医療系廃棄物等の焼却処理により発電した電力(4,800kW)を構内電力として使用するとともに、売電も実施
 ・前処理工程においてアルミ、鉄を自動選別
 ・キルンストーカー炉と流動床炉により、様々な廃棄物処理に対応
 ・「廃棄物焼却時の排熱を利用した発電設備を有する廃棄物処理」が「低CO2川崎プラント'18」に認定(2019.2)
 ・ウェステックかながわでフッドライブ活動を実施(2022.11)

クレハ環境 川崎物流センター
 ・ウェステックかながわに隣接する積替保管施設

川崎港海底トンネル
 ・1979年完成 総延長2,180m
 人道が有り徒歩で通行可能

日本乳化剤 川崎工場 1963開業等 約3ha
 ・乳化剤技術を活かした界面活性剤、特殊溶剤のグリコールエーテル、アミン誘導体を生産

エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル 川崎工場・研究所 1948.12開業等 約5.2ha
 ・業界大手の無水フタル酸を中心とした有機酸製品可塑剤及びマキセルR(ホリエステルポリオール)の有機酸系誘導品独自技術によるバルブ蒸発補助剤SAQR等のキノ系製品の3つを柱として事業展開
 ・キノ機能材の需要拡大に対応する「機能材製造設備」が稼働(2021.4)
 ・2021.10.1エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル(株)設立、エア・ウォーター(株)電材開発事業部、川崎化成工業(株)、大東化学(株)が合併し発足(2021.10)

レゾナック 川崎事業所 約10.5ha
 ・アクリロニトリルや、世界初のシワ防止効果を持つ化粧品用ヒタミンC誘導体「アプレシエ」等を製造
 ・化粧品原料など既存の事業と新しい事業をバランス良く手掛けており、約1,000種類もの製品を作っている。水素、炭酸ガス(コア、ホビー用)、化粧品原料、VGCF(リチウムイオン電池材料)等
 ・昭和電工と昭和電工マテリアルズが統合し、社名をレゾナックに変更(2023.01)

セントラル・タンカーミナル 川崎事業所 1973開業等 約4.2ha
 ・パブリックタンカーミナルとして、液体貨物を運送・保管
 ・タンカーミナル業界では初めてISO9002を取得、その後ISO9001、14001の認証を取得

日本触媒 約1.5ha
 ・酸化エチレン誘導体製造のため東燃化学から土地取得(2007)
 ・アクリル酸特殊エステルプラントを増設(2万t/年)
 2013.10 運転開始、投資額約35億円
 ・アクリル酸や高吸水性樹脂、酸化エチレンなど多種製品で国際持続可能性カーボン認証 ISCC PLUSを取得(2023.02)

跡地約18ha(日本ホリエチレン川崎工場及び日本ホリプロ川崎工場)
 輸出用車両の駐車場等に貸出

昭和物流 本社・関東事業所(川崎営業所) 約3.9ha
 ・昭和電工の物流部門として発足
 ・2002年に丸全昭和運輸の資本参加により、同社のグループ企業として事業展開

日油 川崎事業所 1961開業等 約6.1ha
 ・油化事業(化粧品、医薬品の原材料、食品事業(マーガリン)等)、PEG修飾剤のDDS(薬物送達システム)でトップシェア
 ・DDSの供給先は、アジアを含む国内が1割強、海外が8割
 ・iCONMIに入居、サテライト開設(2019.4)
 ・DDSの生産力増強のための製造設備増設を発表(2021.7)

川崎スチームネット 2006.10開業等
 ・JERA川崎火力発電所の蒸気を近隣企業9社に供給し、地域で大規模な省エネルギー化を実施(2010.2蒸気供給開始、配管延長6.5km)
 ・東京電力、日本触媒、旭化成ケミカルの3社が設立
 ・従来比較で1.1万klの燃料(9500世帯分)、2.5万tのCO2排出量(4700世帯分)の省エネルギー化を実現
 ・第一高周波工業の高周波誘導加熱の技術で配管を湾曲

JERA川崎火力発電所 1961開業等 約28ha
 ・世界最高効率の最新鋭火力発電設備
 ・1号系列:1500℃級コハインドサイクル発電(2009.2運転開始)
 【出力】150万kW(50万kW×3軸)
 【熱効率】約59%「世界最高水準」
 ・2号系列:(運転開始:1軸(2013.2)、2軸(2016.1)、3軸(2016.6))
 【出力】1軸(50万kW(1500℃級))、2・3軸(71万kW×2軸(1600℃級))
 【熱効率】約61%「世界最高水準」(1600℃級)
 ・東京電力から、中部電力との合併会社であるJERAに火力発電事業を移管(2019)
 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、発電所の現地見学を休止し、替わりにオンラインでの見学を実施(2020)
 ・発電所運営のデジタル化を推進(2020.10)

※ 下線を付した企業は、「かわさきカーボン2050」の賛同者